

健康をつくるう!



東北医療センター
高萩協同病院
薬剤師

鈴木 くるみ

筋肉痛や捻挫などいろんな場面で重宝する湿布薬。しかし湿布薬には、「光線過敏症」という副作用があるのはご存じですか？

光線過敏症とは、別名「日光アレルギー」とも呼ばれており、日光が当たることによって皮膚が過敏に反応し炎症や赤み、刺激感を伴う皮疹、水ぶくれなどの症状が出る疾患です。

湿布薬の中の薬は皮膚から吸収され血液の中に入りますが、一部は血液の中に吸収されずに皮膚の中に残ってしまいます。そこに紫外線が

当たると皮膚の中に残った薬と反応してアレルギーの原因物質に変化することがあります。これにより皮膚が炎症を起こします。(光線過敏症を引き起こす可能性がある湿布薬はモーステープや、ミルタックスなどがあります。)

予防法としては、湿布を貼っている患部を紫外線に当たらないようにすることです。湿布をはがしても血液の中からは速やかに消えますが皮膚の中にはしばらく残るため、湿布薬を貼らなくなった後も4週間は紫外線に当たらないように注意して下さい。

上記であげた湿布薬は一部であり、薬剤によって症状も異なります。原因の分からない湿疹やかゆみなどの症状が現れた場合は早めに受診をし、適切な診断や治療を受けることが大切です。



市役所の仕事



建設課
はたけやま みさき
富士 美咲

建設課は、市庁舎の2階にあり、施設整備グループ、施設管理グループの2つのグループで構成されています。主に市有施設の営繕(新築や改修工事)、市道の管理(市道整備や申請受付)、市営住宅の維持管理(入居等の申請受付)などの業務を行っています。

私は施設管理グループに所属しており、市営住宅に関する業務を担当して2年目になります。業務内容については、主に入居・退去の受付、家賃に関すること、入居者からの相談対応などです。日々の業務では、電話や窓口業務が多いので、迅速かつ丁寧な対応ができるよう努めています。

現在、高萩市内の市営住宅は7団地あります。その中で随時募集を受け付けている市営住宅は、高浜住宅、高浜第二住宅、石滝住宅、花貫住宅の4団地です。市営住宅は、市内に居住または勤務している人で住宅に困っている世帯を対象としています。また、入居申込にあたっては、収入等の制限があります。

入居者が快適に暮らすことができる市営住宅になるよう努めてまいりますので、住宅にお困りの人は建設課にご相談ください。

協同病院 海外留学報告

東北医療センター高萩協同病院 内科 医師 加藤 幹朗

高萩市医師確保支援補助金を活用し、平成29年7月からアメリカ カンザス大学附属病院感染症科へ留学された加藤幹朗先生が、本年6月に2年間の専門医研修を修了されました。

加藤先生は、本年7月から東北医療センター高萩協同病院で勤務(非常勤)されております。

2016年度、私は高萩市の推薦を得て茨城県厚生連 東北医療センター 高萩協同病院に、それまで途絶えていた内科常勤医として1年間勤務させていただきました。幸いそれが呼び水となり2017年度からは茨城県厚生連、特に水戸協同病院の協力のもと、高萩協同病院の常勤医による内科診療体制スタートに発展させることができました。これらを背景に、高萩市からご支援を得て2017年から2019年の2年間、アメリカのカンザス大学附属病院にて米国感染症科専門医研修を就学し、無事に研修を修了したので、ここに報告いたします。

私が勤務していたカンザス大学附属病院は州全体を大きくカバーする名門拠点病院として古くよりその名が知られている大病院です。ここで私が所属した感染症科では、特に感染症のみに重点を置いた診療、研究、教育が行われており、その恵まれた環境の中で非常に集中的な感染症診療を行うことができました。例えばカンザス大学附属病院では骨髄移植のほか、腎移植、肝移植、腎臓同時移植、心移植などが行われており、これらに関連する感染症症例をほぼ全例私達の科で担当し、またその他の高度免疫不全患者における難治性感染症や移民による輸入感染など、日本ではまず経験することが出来ない感染症を建設的な教育サポート下に診療することができました。そして外来では週一回のHIV(ヒト免疫不全ウイルス)専門外来を担当し、これによって私はアメリカHIV専門医の資格を取得することができました。

言葉の違い、文化の違い、そして生活環境の変化によって戸惑うことも多々ありましたが、Hin Thorn(ヒンスホーン)教授、そして感染症科全スタッフ/コメディカルの公私にわたる全面的なサポートによって最終的にはチームの一員として誇りをもって診療にあたるようになり、無事に研修を終えたことは何ごとにも代えがたい貴重な経験であったとともに、私自身にとっても大きな自信を得ることに繋がっています。

すばらしい留学の機会を与えた下さった高萩市、そして筑波大学大学院 渡辺 重行 教授に改めて深く感謝申し上げますとともに、引き続き更なる研鑽を積み、研修で得た成果を再び高萩協同病院及び高萩市に還元していくことができると考えております。



カンザス大学附属病院
感染症科メンバーとともに
(写真中央が加藤医師)



第22回 国際エイズ会議
(オランダ アムステルダム市)にて